

学期レポート2007年夏学期(6月4日～8月17日)



第一期生 太田琢磨

夏学期開始

まだ夏の気配の感じられない6月の頭に夏学期は始まった。去年の夏と同じく多くの学生が帰郷したため、私の住む寮のエリアは、とても静かな環境となった。これまでの学期は特に聴覚障害者関連の情報保障というかたちで色々調査を進めてきたが、今学期は聴覚障害者だけではなくそれ以外の障害者の支援との連携が、どのように行われているかに関して調べることも大きな課題の一つであった。そのため、今学期の課題は、3つのカンファレンスに参加することで、今までの調査で分からなかった、テクノロジーを利用した支援の実態、その他の障害学生支援との連携方法等細かい疑問点の穴埋めを行うことが一つの目的であった。それに加えて、私の1年半の研修内容のまとめ、そのプレゼンを行うことが課題として提示された。

ADARAカンファレンス(5月22～26日)

5月22日から、ミズーリ州セントルイスで行われたADARAカンファレンスに参加した。日程的に前学期の日程と重なってしまうのであるが、担当教員の許可をいただいた上で、夏学期分の単位として認証していただいた。このカンファレンスは毎年米国のどこかで行われており、全米から聴覚障害者の支援に関わるソーシャルワーカーや教育関係者が集い、情報交換や情報提供を行う場である。当日は、想像していた以上に多くの人々が参加しており、また、たくさんの聴覚障害者のソーシャルワーカーや専門家が集まっていたことが印象的であった。また、ほとんどの人々が修士号もしくは博士号を持っており、アメリカの聴覚障害者支援に関わる聴覚障害者自身が、高度教育を修了していることに驚かされた。様々なプレゼンテーションやパネルディスカッションは、私の興味を持つ情報保障分野や私は自分の興味のある情報保障分野や学生の支援に関する内容のプレゼンを聞きに行った。それだけでなく、参加者との交流の中でいろいろな支援団体も知ることができた。



ADARAカンファレンス

会場からゲートウェイアーチを望む

CAIDカンファレンス(6月25～27日)

6月25日から、ネバダ州リノにて、CAIDカンファレンスが行われた。このカンファレンスは主にろう教育関係者を対象にしたカンファレンスで、アメリカのろう教育に関わっている大学の教授や高校・中学校の教員たちがたくさん集まっていた。

今回のカンファレンスでは主にテクノロジーを教室でどのように活用していくか。また、オンラインラーニングや学生との電子メールやメッセージを使った、学生と教員のコミュニケーション方法に関する、実践報告がたくさん行われていた。テクノロジーをどうクラスで生かしていくのかということのほか、学生の心理的支援の具体例、学生にどのような視覚的イメージを与えて語学力を伸ばすのかといった様々な発表が行われた。どれも実践的で斬新なアイデアであり、私にとってもとても参考となるものが多かった。私の調査テーマは情報保障であるが、教員の協力や、教員がより多くの教育技能を駆使することで、情報保障もクラスの中で生きていくということが理解できたことは、とても有意義であった。



CAID
会場のカジノ入り口

AHEADカンファレンス (7月15日～21日)

7月15日から、ノースカロライナ州シャーロットにて、AHEADカンファレンスが行われた。この会議は障害を持った学生のサポートに関する国際会議であり、日本だけでなく世界各地から多くの人々が集まった。これまで私が参加してきたカンファレンスは、聴覚障害者の教育や福祉に関する内容であったが、今回は全ての障害学生に対してどのようにサービスを提供していくのかということがテーマであり、これまで私がアメリカで学んできたことを統括するという面から考えると、これまでの点の情報であった部分を線に変える大きな目的があった。



シャーロットの町の夜景

AHEADカンファレンスでも、ほとんどがテクノロジーを使用したサポート方法とその問題点に関する内容がほとんどを占めていた。アメリカではオンラインを利用した学習や、コンピュータを利用した視覚教材を利用することが、近年多くなっている。しかし、必ずしもそれらの情報を全ての障害者が有効に活用できていない現状がある。特にPDF形式の文書はアクセシビリティ対策がなされていない場合、視覚障害者の人々はスクリーンリーダーを用いて読むことは不可能である。また、近年流行している、YouTube等で利用されている動画には必ずしも字幕添付されていないケースが多く、聴覚障害者がビデオの内容を理解できないと言ったケースも存在する。また、オンラインラーニングでは、健常者の学生と障害者の学生のレスポンス速度が異なるため、ディスカッション機能がうまく活用できないという問題もあげられていた。これらの問題に対して、参加者から

様々な意見が出され、様々な事例や対策方法を聞くことができたことで、より多くのテクノロジーを使用した支援方法を学ぶ良い機会となった。オンラインを使った、視覚的教材や、学習プログラムの活用は、学生たちの勉強に役立てていることもわかった。また、若い人から年配の人まで積極的にパソコンを活用としている様子が伺え、コンピュータと視覚情報を活用した教育方法確立に向けて、Section508の制定に伴い、多くの人々が興味関心を示しているのではないかと感じている。

これらのカンファレンスでは、多くの情報を得られただけでなく、たくさんの人々と出会うことができたのも、私にとってとても良い機会となった。特に同じ障害を持つ多くの現場経験者と出会い、彼らの実践内容を聞くことにより、より細かいことも理解できるようになった。

8月上旬は私の一年半の調査レポートの作成とそのプレゼンテーションの準備に多くの時間を費やした。今まで集めた資料を改めて再整理し、自分の研修の結果としてまとめ上げる作業は、想像以上に大変な作業であった。8月19日に私のこれまでの研修報告をPEN-Internationalで行い、無事に合格をいただくことができた。それらの合間を縫って、ロチェスターに住む友人や、先生たちに別れを告げたり、部屋の片付けを行った。残念なことに、夏休み中のため帰郷してしまっている友人や、学校にきていない教員も多くお世話になった人々全員に挨拶をすることができなかったことが心残りである。片付けは家具付きの部屋に住んでいた関係、家具の処理などを行う必要はなかったのであるが、一年半の生活の中で増えた様々なものの処分に苦労させられた。また、これまでに集めた資料などの整理を行ったが、持って帰らなくてはならない物が多く、本などの資料は、段ボールに詰め別の便で日本に送ることとなった。



片付けの終わった、一年半住んだ私の部屋

帰国の前日にはPEN-Internationalの職員の皆さんとのお別れ会があった。また、その夜にはロチェスターに残っている国際学生の友人たちと一緒にレストランに行きお別れパーティーをした。長い間会えなくなってしまうが、又いつか会おうと約束し最後の夜を楽しんだ。

8月24日の朝、アメリカを発った。ハリケーンの影響で出発が遅れが出るのではないかと心配したが、時間通りに飛行機は離陸した。私が渡米したのは、ちょうど一年半前の2月24日であった。その一年半後にアメリカを出国し、8月25日に無事に日本に帰国することができた。まだ、まとめ切れていないことも多いため、今後これまで学んできたことを改めて再整理していかなくてはならないだろう。一年半という期間はとても短い機関であったが、とても充実した期間であった。これまでの経験を元に、今後も一步一步新たな道を目指して進んでいきたい。

私の留学生生活を支援してくれた日本ASL協会の皆様、日本財団の皆様がこの場を借りてお礼申し上げます。